

議会だより

あしや

No.207

令和2年
9月定例会

令和2年11月15日発行
福岡県芦屋町議会



P 2 令和元年度決算

P 5 条例・その他

P 6 コロナ対策支援

P 8 芦屋釜購入に向けて

P 11 行政報告

P 12 一般質問

屋台フェス 2020in 芦屋のステージイベント
に参加した日本ポビナム協会の皆さん

※ポビナムとはベトナムで生まれた総合武道です。

9月定例会

第3回定例会が、令和2年9月3日から15日までの13日間の会期で開催されました。4日に行われた一般質問では、7人の議員が登壇しました。条例、決算、補正予算など24議案が上程され、全て可決されました。

プと社会教育の拡充



利用していた芦屋ミニバスケットボールクラブの皆さん

バスケットゴール設置

約915万円

利用者の利便性向上のため、メインアリーナに固定式のバスケットゴールを2面分設置しました。

ミニバスケットにも対応しており、準備の手間が省け、手軽に楽しめるようになりました。

図書館システム更新

約621万円

古くなり、故障が増えていた図書館の蔵書管理・検索システムなどを更新しました。

また、今回クラウドシステムを導入したことで、システムエラーなどに即時対応できるようになりました。



漁港施設整備補助金交付

1012万円

(平成30年度約1123万円)

老朽化した芦屋支所の製氷庫を漁港組合が平成30年度から2カ年計画で更新するため、補助金を交付しました。

総事業費：約8863万円

町負担分：約2135万円

(総事業費のうち県が1/2、町が1/4、漁協が1/4＋税等を負担します。)



製氷庫を利用していた漁師さん

令和元年度決算

地域交通の利便性アップ

一般会計決算は、歳入 85 億 8826 万 6031 円（前年度比 2 億 8597 万 5115 円増）、歳出 83 億 2313 万 5304 円（前年度比 3 億 337 万 9892 円増）となりました。

元年度の主な事業を紹介します。

※ 1 万円未満は切り捨てています。



巡回バス購入

約 1 0 3 7 万円

令和 2 年 4 月から、利便性向上を目的に、巡回バスの路線を 2 路線から 3 路線に変更するため、14 人乗りの車両を 2 台購入しました。

現在、15 人乗り 1 台、14 人乗り 2 台の計 3 台で運行し、10 人乗りの予備車両（故障や点検時に使用）1 台を保有しています。

タウンバスのバス停上屋設置

約 1 1 8 3 万円

利用者が快適に待ち時間を過ごせるようにバス停の環境を整備するため、海浜公園入口と中央病院下のバス停に雨風よけの上屋を設置しました。

令和 2 年度は、ゆっくり座って待てるように、20 カ所のバス停にベンチを設置する予定です。



庁舎外壁改修

約 1 億 1 9 0 0 万円

平成 28 年度に庁舎外壁の点検を行った結果、外壁の老朽化などにより、改修が必要となりました。平成 30 年度に実施設計、令和元年度に外壁改修工事と雨漏りしていた屋上の部分的な防水工事も行いました。



令和元年度決算

質疑・討論（一部抜粋）

一般会計決算の認定

（賛成多数・認定）

◆消防団員費用弁償

費用弁償880万円を支出し

問 た消防団員数や出勤日数は、

また、非常事態や火災などの出勤回数は。

答 団員は定数88人に対し80人と不足している。また、出勤回数は毎月2回の定例点検を含め年間で50～60日程度である。非常時などは火災関係で2件、誤報で数件程度ある。



消防出初式の様子

◆税証明のコンビニ交付システム導入業務委託

導入業務委託

問 税証明のコンビニ交付システム導入業務委託の財源は

町単費か。

答 事業費約756万円のうち、町単費（一般財源）が

426万円、残り330万円が過疎対策事業債（ソフト事業）である。

◆高校生等通学費補助金

問 前年度比で400万円増額しているが、高校生の人数と申請状況は。

答 令和元年度より補助対象の公共交通機関にJRなどを追加し、公共交通機関の定期を購入した場合などは年額2万円の補助を行うことにした。高校生の人数は把握できないが、元年度は町内のバス利用が140人、町外のバスやJR利用が60人、2万円の補助が76人、計276人が申請していた。

反対

【緊急性の少ない事業を国に言われるままに推進する必要はない】

川上誠一議員

学校教育の環境整備や農漁業の基盤整備、地域交通の拡充などは住民生活向上につながるため評価できる。

しかし、国は圧倒的多数が必要と感じていないマイナンバーカードにマイナポイントを付与するなど、なりふり構わず、その普及に突き進んでいる。

また、女性管理職の登用推進は進んでおらず、介護保険制度は制度の改悪により住民に大きな負担増と給付削減が押し付けられている。



バスで通学している高校生

反対

【税金を無駄にしないで】

妹川征男議員

納税義務者の利便性という名目で、町はコンビニ交付システム導入を図った。業務委託費として町費と過疎債を活用し、約2000万円を執行している。利用者はマイナンバーカードを使用し、所得税証明書、住民票などを受け取れる。導入は各自治体で判断され、県内60自治体の3分の1が導入している状況だが、1～8月の利用数はわずか177件であり、1件当たり約11万円かかったことになる。納税者の利便性とはいえ、大金を使ってまで導入する必要はなかったのではないかと。



条例

町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の制定

(満場一致・可決)

地方自治法などの改正に伴い、町長などの町に対する損害賠償責任について、賠償責任額を限定し、それ以上の額を免責する旨を条例で定めます。

地方独立行政法人芦屋中央病院の役員の損害賠償責任の免除に関する基準を定める条例の制定

(満場一致・可決)

地方独立行政法人法の改正に伴い、役員などの当該地方独立行政法人に対する損害賠償責任の免除基準について条例で定めます。



その他

指定管理者の指定

(満場一致・可決)

国民宿舎マリンテラスあしやの指定管理者を指定します。

◆指定管理者

(株)ホテルエクセル岡山

◆指定期間

令和3年4月1日から令和8年3月31日まで

問

今回の指定にあたって、応募状況と会社の特徴は。



指定管理されるマリンテラスあしや

答

4月から公募を開始し、応募は(株)ホテルエクセル岡山の1者のみであった。

◆特徴

- ①レストラン経営も行っており食に強みをもっている。
- ②インターネットを活用した予約システムの面で強みをもっている。

賛成

【力強い企業に期待している】

中西智昭議員

現在2つのホテルを経営しているが、その評価についても利用者の口コミ評価4.2と高評価であり、食に大変強い。インターネットによるPR活動や利用促進など、とても強いところがあると聞いた。選定委員5人の評価も高く、経営・集客ともに見込めるのではないかと感じる。

令和元年度で起債も償還されたため、負担も軽減し、営業がやりやすくなっている。企業側から黒字分の50%納入や赤字補てんの補償なしなど、勢いのある企業として評価した。

ボートピア勝山における訴訟事件の和解(満場一致・可決)

ボートピア勝山の借地に係る地権者との不当利得返還請求訴訟について、裁判所から和解の勧告があり、これに応じます。

令和元年度芦屋町モーターボート競走事業会計未処分利益剰余金の処分

(満場一致・可決)

地方公営企業法の規定に基づき、未処分利益剰余金約49億7772万円のうち、41億3200万円を建設改良積立金に積み立て、残りを繰越利益剰余金として翌年度に繰り越します。



コロナ禍で

町民への支援を充実

専決処分事項の承認

(満場一致・承認)

新型コロナウイルス感染症対策事業に関する一般会計の補正予算(歳入歳出それぞれ1億4000万円の増額補正)を専決処分しました。

主な事業

・高齢者生活応援商品券給付事業
65歳以上の高齢者に対し、町内の店舗で利用できる商品券を1人当たり1万円分支給する。

・子育て世帯生活応援商品券給付事業
0歳から18歳までの子どもがいる世帯に対し、町内の店舗で利用できる商品券を子ども1人当たり1万円分支給する。

・電気料金支援給付金給付事業
1世帯につき1万円支給する。

補正予算

一般会計補正予算(第3号) (賛成多数・可決)

一般会計補正予算(第4号) (満場一致・可決)

2つの補正予算を合わせて、歳入歳出それぞれ5億3900万円の増額補正です。

補正のあった歳出の主な内容	補正額
新型コロナウイルス感染症芦屋町独自支援策 (家賃軽減支援金給付事業・あしやつ子応援商品券給付事業 インフルエンザ予防接種助成金交付事業など)	4642万円
地域経済循環創造事業補助金 (芦屋釜鋳物師の工房建築に対する補助金)	2500万円
地域おこし協力隊関係	—
社会保障・税番号制度システム整備業務委託	—
山鹿保育所外部改修工事	—
国民宿舎特別会計繰出金(運営費)	約2803万円
小・中学校ICT支援事業	—
重要文化財指定芦屋釜購入費	—

※委託料、工事費、備品購入費は、金額の公表を行っていません。

◆新型コロナウイルス感染症芦屋町独自支援策

主な事業

・家賃軽減支援金交付事業

売上の急減に直面する町内のテナント事業者に対し、家賃軽減支援金を国の給付金や県の支援金に上乗せして支給する。

問 手続きなどの相談はどこで行えばよいのか。

答 商工会が相談を受け付けている。



・あしやつ子応援商品券給付事業
令和2年4月28日から3年4月1日までに生まれるあしやつ子の保護者に対し、町内で使える商品券を対象児1人につき5万円分支給する。



・インフルエンザ予防接種助成金
交付事業

新型コロナウイルス感染症の拡大と季節性インフルエンザの流行による、医療機関の診療業務への影響を最小限に抑えるため、国が示す優先度の高い人を中心に、インフルエンザ予防接種費用を助成する。

問 インフルエンザ予防接種助成金の対象は。また、助成金額はいくらになるのか。

答 生後6カ月から18歳まで、妊婦、65歳以上（60歳から65歳未満の慢性高度心・腎・呼吸器機能不全者など）、町内の医療機関、薬局、幼稚園、保育所、学童クラブ、小・中学校、高齢者福祉施設、障害者福祉施設の勤務者に助成する。

対象者	助成金額
生後6カ月～12歳 2回接種が原則のため2回助成	3000円 (上限6000円)
13歳～18歳	3000円
妊婦	3000円
65歳以上など	全額(県と町)
町内の医療機関など勤務者	3000円



問 財政調整基金から繰入増額しているが、国から交付金として出てくるのか、町単費として行うのか。

答 高齢者のインフルエンザの接種は、国の定期予防接種に位置づけられているため交付税措置がされるが、それ以外は、町の単費事業となる。

芦屋町の9月定例会終了後、福岡県でも65歳以上などのインフルエンザ予防接種個人負担分を県が負担するよう事業が進められました。今年度は県と町で接種料金を負担し、個人負担額が0円となります。



賛成

【無料化、助成対象者拡大に賛成】

萩原洋子議員

今回の補正予算は、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時感染による重症化を予防することができる。

高齢者や費用負担が大きい子どもたちが安心して予防接種できる支援策となっている。

また、町の医療・介護・学校に勤務する人を支援することによって町民の生活維持を確保できる。

ワクチンの確保などの問題で19歳から64歳までの町民に対する助成はないが、新型コロナ対策として評価できる。



賛成

「コロナウイルスによる重症化を抑える有意義な予算」

内海猛年議員

インフルエンザ予防接種の助成対象者が、生後6カ月から18歳までの者、妊婦、65歳以上の高齢者（60歳から65歳未満の慢性高度心・腎・呼吸器機能不全者など）、町内の医療機関、幼稚園、保育所、福祉施設などの勤務者となっており、19歳から64歳までの人はワクチン供給の問題などの理由で除外されていることは大変残念である。

しかし、インフルエンザの予防とコロナウイルス感染症による重症化を防止することからも、インフルエンザ予防接種助成の予算は大変有意義である。



国の重要文化財芦屋釜

里帰りに向けて始動



◆重要文化財指定芦屋釜購入費

問 購入時期はいつになるのか。
また、購入した際の展示場所はどうするのか。

答 年内には購入したい。また、展示場所は芦屋釜の里内を考えている。

問 常設展示にするのか。

答 できるだけ常設展示を考えている。

問 収蔵展示施設改修工事設計の内容は。

答 防火などの設備が不足するため、一部改修が必要になってくる。また、各地の美術品などを借りて展示することも踏まえ、今の施設では手狭となることも考えられる。増築なども含め、文化庁の指針と施設管理ハンドブックに基づく整備を、設計の中で検討していきたい。

問 工事中の芦屋釜の里の運営はどうするのか。

答 工事の内容によっては、一時的な閉館が必要となる可能性がある。今後、設計業者などと協議・調整していく。

芦屋釜の展示を予定している芦屋釜の里

賛成

【国の補助を最大限に活用】

信国浩議員

一般会計補正予算のうち、特筆すべき点は以下のとおりである。

① 新型コロナウイルス感染症に関する予算で、その大半は子どもたちなどの弱者に対して、安心・安全を確保する上で必要な予算である。

② 長らく途絶えていた芦屋釜を復興し、さらに発展させていく鑄物師の保護・育成に関する予算である。

③ 現在、国指定重要文化財茶の湯釜9点のうち8点が芦屋釜であるにもかかわらず、そのほとんどを博物館などが所蔵しているため購入は困難とされていた。しかし、今回国の補助を活用することで、購入が可能となった。

賛成

【オンラインワンの芦屋釜】

長島毅議員

重要文化財であるオンラインワンの芦屋釜購入は歴史や文化の継承や観光資源として芦屋釜の里事業のさらなる充実、芦屋鑄物師の技術継承にも重要な役割を担うものになると考える。財源についても過疎対策事業債を活用し、町の財政に対して考慮されていることも評価に値する。

また芦屋釜の図録の表紙を撮影した際に、芦屋釜のもつ緻密なあられもよう霞模様の滑らかさや厳しい表情の鬼の鍔付の独特のオーラに圧倒され、心と手が震え大変感動した。それ以上の芦屋釜がこれから芦屋釜の里で見られるのかと思うと、今から心躍っている。

◆地域経済循環創造事業

問 地域経済循環創造事業とは何か。また、その補助金2500万円の詳細は。

答 地域経済循環創造事業とは地域の人材、資源と資金を活用した新たなビジネスを立ち上げようとする民間事業者の初期投資費用を支援することである。

今回は芦屋釜の鋳物師が工房を建設するため、その初期投資費用を支援する。補助金2500万円のうち、3分の2の約1670万円は国から、残りの3分の1の約830万円は町からの補助となる。



鋳物師の八木さんとその作品

◆小中学校ICT支援事業

問 小学校に491台、中学校に236台のタブレットを購入するが、全ての生徒に行き渡るのか。

答 現在、児童生徒数の3分の1の384台を購入しており、今回は727台購入するため、1人1台体制が確立される。

問 タブレットの配付はコロナ対策として、学校とオンライン学習を行う前提があると思うが、今後の環境整備の考えは。

答 オンライン化にあたっては、家庭側の環境を整える必要がある。義務教育ということで、Wi-Fi設備環境も各家庭100%を目指すのであれば、何らかの支援が必要だと考えている。町長からも検討するよう指示を受けているため、環境100%にできるよう、手法を検討している。



タブレットを使用した授業

モーターボート競走事業会計補正予算（第1号）
（賛成多数・可決）

◆収益的収入＝電話投票の売上増に伴う発売金を増額計上。

◆収益的支出＝売上金の増額に伴う払戻金や西プラザ屋内遊具整備委託料などを増額計上。

賛成

【魅力ある大型遊具に期待】

辻本一夫議員

モーターボート競走事業会計からの7億円の繰入金で、コロナ対策や教育、福祉など、町民の様々な要望に応えることができる。

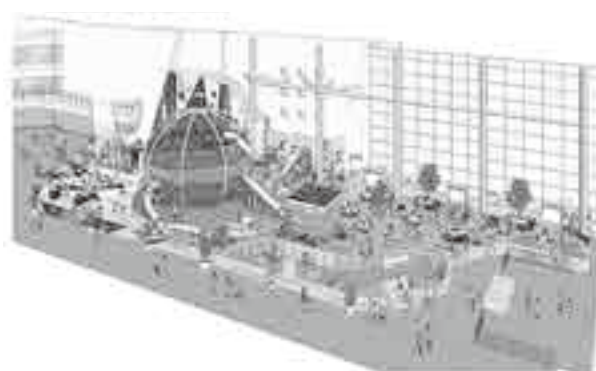
近年、他のボートレース場には女性や家族が快適に過ごせる施設もあり、ギャンブル場からレジャー施設へと様変わりしている。

増額補正8400万円（2力年で2億8000万円）は、場内に子どもたちの体力増進にも繋がるドーム型大型遊具やボルダリングウォールなどの魅力あるモビー（キッズパーク）を設けるためであり、近郊からの来場者増も期待できるため賛成する。

意見書

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書
（満場一致・可決）

令和3年度地方財政対策や地方税制改正に向け、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し、地方税財源の確保を求める意見書を国へ提出します。



西プラザ屋内遊具のイメージ図

意見書の詳細



芦屋町ホームページ

契約

各家庭に戸別受信機が配布されます。



地域情報伝達システム整備
工事請負契約の締結
(満場一致・可決)

◆契約金額…4億1580万円

◆契約先…(株)九電工北九州西営業所

賛成

【瞬時の情報提供に期待】

本田浩議員

現在、いろいろな情報が隔々まで行き渡らない問題点があると実感している。広報紙は全世帯に戸別配達となっているが、自治区加入率は50%台となっており、回覧板は自治区未加入世帯に行き渡らない。

このような状況の中、町内一律に同じ情報が同じ時間帯に配信され、隔々まで情報が伝達できる地域情報伝達システムが構築されることは非常に素晴らしい。

9月定例会で意見がわかれた議案の賛否一覧



表決の様子(満場一致)

議員は挙手をして、賛成・反対の意思を表示します。

議案の賛否を掲載しています。掲載のない18議案は、満場一致で可決されました。

※議長には、賛否の意思表示をする表決権がありません。ただし、賛成・反対が同数になった場合、可否を決める裁決権があります。

○：賛成、×：反対を表しています。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	賛成	反対	審議結果
議案名 / 議員名	内海	中西	長島	萩原	信国	本田	松岡	妹川	辻本	小田	川上	横尾			
令和2年度芦屋町一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	—	10	1	可決
令和2年度芦屋町モーターボート競走事業会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	—	9	2	可決
令和元年度芦屋町一般会計決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	—	9	2	認定
令和元年度芦屋町地方独立行政法人芦屋中央病院貸付金特別会計決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	—	10	1	認定
令和元年度芦屋町国民健康保険特別会計決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	—	9	2	認定
令和元年度芦屋町後期高齢者医療特別会計決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	—	9	2	認定

行政報告

◆令和2年7月豪雨による被災地 大牟田市へ短期的職員を派遣

福岡県町村会からの要請により、7月21日から27日まで罹災証明書受付業務支援のため、大牟田市へ職員1人を派遣しました。

また、7月21日、22日、25日の3日間、被災住宅などの被害調査支援のため、都市整備課から職員6人を派遣しました。

派遣職員は貴重な経験をするこ
とができ、この経験を今後の業務
などに活かしていけるものと考え
ています。

なお、大牟田市への支援は、引
き続き行っていく予定です。

行政報告とは・・・

町長が議会を通じて町の重要
な問題の経過などを住民に報告
するものです。

ここでは、令和2年6月から
8月までの行政報告の一部を掲
載しています。

◆子どもたちへの花火配布とサ プライズ花火の実施

夏の風物詩である「あしや花火
大会」が、新型コロナウイルス感
染症の感染拡大防止のため中止と
なり、花火大会を楽しむにしてい
た子どもたちに家庭用花火セット
を配布しました。子どもたちに
は、この花火を楽しんでもらうこ
とで、夏の思い出を作ってもらえ
ればと思います、実施しました。



8月に町内でサプライズ花火を
打ち上げました。このサプライズ
花火は、町民の皆さんが少しでも
元気になるよう、また、医療従
事者への敬意を表すことを目的に
実施しました。

議会の活動を報告します。

議員と自治区長の兼務

8月27日の議会運営委員会にお
いて、議員は自治区長を兼務しな
いよう決定しました。

正副委員長研修会

8月21日に福岡県町村議会議長
会主催の常任・議会運営委員長・
副委員長研修会に参加しました。

研修会では「地方議会をめぐる
諸問題と委員会の進め方につい
て」学びました。



研修会の様子



一般質問

町政を問う



一般質問会議録

9月4日に7人が一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などの所信を聞き、報告や説明を求め、疑問点をたずねることです。

ページ	質問議員	質問事項
13	松岡 泉	◎新型コロナウイルス感染症に適應するための環境整備 ◎防災・減災対策
14	川上 誠一	◎少人数学級 ◎町の新型コロナウイルス感染症に対する対応
15	内海 猛年	◎新型コロナウイルス感染症に対する町の取り組み
16	本田 浩	◎新型コロナウイルス感染症関連に伴う小・中学生の学校生活等
17	長島 毅	◎新型コロナウイルス感染症に対する町独自の支援策
18	萩原 洋子	◎秋冬に向けた感染症防止対策 ◎地域の防災対策
19	妹川 征男	◎荒廃し続ける芦屋海岸 ○芦屋港のレジャー港化

◎：記事掲載あり ○：記事掲載なし

議会だよりは要約しています。詳しくはホームページの会議録や録画中継でご確認ください。



録画中継

まつ松

おか岡

いずみ泉

ポストコロナを見据えた町の基本戦略は

町長

新しい生活様式の実践による感染防止と地域経済の維持を図る

**新型コロナウイルス感染症に
適応するための環境整備**

問 感染症の拡大に伴い、日常生活様式も変容しつつある。

答 国は、感染症拡大防止と社会経済活動の両立に向けた政策を優先的に行う骨太方針を示したが、町の基本戦略は。

問 国、県の動向を把握し、新しい生活様式の実践による感染防止と地域経済の維持の両立を図りながら、適宜、対応していく。また、働き方改革の推進により、サテライトオフィスの誘致や地域おこし協力隊の活用にも取り組む。

問 感染症対策で行政のデジタル化の遅れが指摘されたが、町も環境整備を急ぐべきでは。

答 国は年内に環境整備の工程を具体化し、主導的な支援を果たすとしている。町は、国の動向を注視し、デジタル化の環境整備に取り組んでいく。

防災・減災対策

問 芦屋町避難所運営マニュアル（開設期用）が作成されているが、早期にその検証と周知の徹底をすべきでは。

答 コロナ禍では、避難所対応がこれまでと異なる。大規模な災害が発生した場合、各小学校や各公民館の公共施設の開設も必要となり、台風時期に再度、職員へ周知徹底を図る。

問 災害発生時は、高齢者などの避難弱者を早めに避難させる必要があるが、対処計画はまだ策定されていない。自主防災組織などへの支援は。

答 個別計画は地域の負担が大きいいため、ほとんど策定されていない。地域の負担軽減策を検討するほか、在宅で生活している重度者への対応も、先進地事例を参考に関係機関と協議し、個別計画の策定支援を行う。



密にならない工夫をした避難所

問 マイ・タイムラインの作成方法は町のホームページに記載されているものの、その周知は不十分である。作成講習会を開催すべきでは。

答 自治区などから要望があればマイ・タイムラインを含めた防災対策の出前講座などを行っていく。一般社団法人河川情報センター提供のマイ・タイムライン検討ツールを町のホームページにリンク付けているので、活用してもらいたい。

コロナ禍を機に 20 人学級の実施の考えはあるのか

町長

空き教室を使い、先行して少人数学級に対応していきたい



録画中継

かわ 川 かみ 上 せい 誠 いち 一



席の間隔をあけた小学校の授業

少人数学級

問 教室での三密防止のため、20 人学級を実施するべきでは。

答 国に学校や教育関係団体も少人数学級の要望を上げています。分散登校では人数を半分にして授業を行ったが、教師から「きめ細やかな指導ができた。」との意見が多く寄せられた。ぜひ実現してもらいたい。

答

全国町村会なども教育環境の整備に向けた緊急提言で少人数学級の実現を文科省に出している。教員や教室の確保のため、国の財源の確保が必要だ。芦屋町では空き教室があるため、国のバックアップが決まれば、コロナがある程度収束した中で実施を考えている。子どもの将来のため、少人数学級は一番大切なことである。いじめや ICT 教育に対応するためにも必要である。

町の新型コロナウイルス感染症に対する対応

問

芦屋中央病院で PCR 検査の実施は出来ないのか。

答

中央病院ではかかりつけの患者が希望すれば、PCR 検査を行う体制は確保している。検査金額は遠賀中間医師会おんが病院、おかがき病院と同額の 2 万 7 5 0 0 円である。今後とも現状の方針に基づき、希望す



中央病院の発熱外来

問

旧芦屋中央病院を無症状者や軽症の陽性者の保護・療養施設として活用するように、県に働きかけてはどうか。

答

県はホテルを中心に部屋確保を進めており、旧芦屋中央病院は病室にトイレや入浴設備が設置されていないことから、コロナウイルス感染症の人を対象とした保護・療養施設として活用することは難しいとのことである。



録画中継

うち内 海 猛 とし 年

新型コロナウイルス感染症に関する総合相談窓口の設置を

健康・こども課長

健康・こども課へ相談されるように
広報紙などで周知する

新型コロナウイルス感染症に対する町の取り組み

問 インフルエンザの流行が懸念されるが、発熱などで新型コロナウイルスの感染が心配なときはどうすればよいか。

答 比較的軽い風邪の症状が続く場合は、宗像・遠賀保健福祉環境事務所（保健所）に相談し、PCR検査が必要と判断されれば無償で検査を受けられる。

問 保健所は新型コロナウイルス感染症拡大や濃厚接触者の追跡調査などで電話がつながりにくいと聞か、現状は。

答 当初は電話がつながりにくかった。現在は協力医療機関として6つの病院と契約しており、夜間や休日でも相談できる体制になっている。

問 新型コロナウイルスに関する総合相談窓口を設置できないか。

答 相談窓口は設置していないが、何かあれば健康・こども課へ相談してもらうよう広報紙やホームページで周知する。

問 芦屋中央病院では、無症状の人のPCR検査も実施しているのか。

答 町民に関わらず、芦屋中央病院かかりつけの患者は、自費でPCR検査を受けられる。

問 新型コロナウイルスに関する総合相談窓口を設置できないか。

答 当初は電話がつながりにくかった。現在は協力医療機関として6つの病院と契約しており、夜間や休日でも相談できる体制になっている。

問 町と芦屋中央病院は特段連携を取って対応はしていない。しかし、芦屋中央病院は保健所の要請を受け、PCR検査の実施や、発熱外来の開設など、地域住民のために新型コロナウイルスにも対応している。

問 芦屋中央病院では、無症状の人のPCR検査も実施しているのか。

答 町民に関わらず、芦屋中央病院かかりつけの患者は、自費でPCR検査を受けられる。

問 新型コロナウイルスに関する総合相談窓口を設置できないか。

答 相談窓口は設置していないが、何かあれば健康・こども課へ相談してもらうよう広報紙やホームページで周知する。

問 芦屋中央病院では、無症状の人のPCR検査も実施しているのか。

答 町民に関わらず、芦屋中央病院かかりつけの患者は、自費でPCR検査を受けられる。

問 新型コロナウイルスに関する総合相談窓口を設置できないか。

答 相談窓口は設置していないが、何かあれば健康・こども課へ相談してもらうよう広報紙やホームページで周知する。

問 学習の遅れに対する対策は。

答 ①学校行事やPTA行事の中止による授業時間の確保、②学習の内容に軽重をつけた指導計画の見直し、③夏休みの短縮と土曜日授業の実施などにより、学習の遅れを取り戻すことができるかと考えている。

問 保護者や児童・生徒の不安・戸惑いに対してどのようなフォローをするのか。

答 学校・家庭・地域が一体となって、芦屋町の児童・生徒の心身の健康と学びの保障に取り組んでいきたい。



芦屋中学校のスポーツ大会の様子



ほん だ ひろし
本 田 浩

コロナ禍で体力低下の中、体力増強のため体育祭実施の考えは

教育長

スポーツ大会として、競争遊技や応援合戦などの実施を考えている

新型コロナウイルス感染症関連に伴う小・中学生の学校生活等

問 授業時間が確保できず、2学期がスタートする中で、授業に遅れはあるのか。

答 小学校と中学校で違いはある。科目によって、3週間分の遅れがあるが、2学期中には遅れを取り戻せる。

問 夏休みの短縮は、どのくらい学習の効果があつたのか。

答 不足していた授業時間を、2週間分取り戻したことが、最大の効果である。

問 マスク着用の通学や学校生活で体調不良はあるのか。

答 小学校では担任・養護教諭・管理職など複数で判断し、大事を取って保健室利用を促したため、保健室の利用者数は若干増加している。

中学校の保健室利用者数は例年と変わらない。

問 コロナ対策や暑さ対策として、傘を差しての通学は検討されなかったのか。

答 一定の効果があると考え、傘の購入・配布を検討したが、空気清浄機やパーテーションなどの購入を優先した。

問 秋は体育祭実施など、体力増強の時期であるが、実施をどう考えるのか。

答 3密を避け、スポーツ大会という名目で、競争遊技とリーダーシップを発揮する応援合戦などを考えている。

問 スポーツ大会の実施に際し検討事項はあつたのか。

答 密を避けるため、保護者の出席を制限し、学校により保護者の出席を1人または2人とする予定である。



芦屋中学校のスポーツ大会の様子

問 行事に出席できる保護者の人数制限の算出根拠は。

答 スポーツ大会実施の可否をPTAと協議し、感染防止対策を講じる必要があるため、各学校のグラウンドの保護者スペース面積を計算し、人との距離を確保できる収容可能人数として算出した。



録画中継

なが
長しま
島つよし
毅

町独自のアッシーステッカーを発行する考えは

町長

このステッカーはよくできており、採用できれば参考としたい

新型コロナウイルス感染症 に対する町独自の支援策

問

第1弾、第2弾で町内事業者への一律10万円の事業継続支援給付金に、どれくらいの申し込みがあったのか。

答

どちらも8月31日までの受付で、第1弾は543件あり、その内訳は商工業関係344件、教育関係7件、医療福祉関係35件、サービス業その他157件である。第2弾は89件で、内訳は農業31件、漁業58件である。第1弾と第2弾で合計632件の申し込みがあった。

問

第1弾での事業継続支援給付金の目的は。

答

緊急事態宣言発令後、自粛要請などに伴い影響を受けている町内の事業所に対し、事業継続のため、その時点で必要とする費用に充ててもらうことを目的とした。

問

感染防止対策には備品や設備改修などに経費がかかる。県や近隣市町村のように、今後も適切な感染防止対策を行うための追加支援策は。

答

対象店舗や実施内容も併せて、新型コロナウイルス感染症対策会議などで今後検討していく。

問

感染防止対策の強化と経済活動の活性化の両立のため、ガイドラインを遵守し適切な対策を行っている事業者へ、町独自のアッシーステッカーを配布してはどうか。

答

現時点で町独自のステッカー作成の予定はないが、現在推進されている県の感染防止ステッカーの配布事業や予定されている感染対策への助成事業が実施されれば、申請の呼びかけなど周知に力をいれる。

答

このステッカーはよくできており、採用できれば参考としたい。

問

県の感染防止宣言ステッカーはパソコンなどで申請フォームを使用する自己申告制なので、申請の不得意な人などのために、サポートデスクや相談窓口を設けてはどうか。

答

県のステッカー活用の周知と併せ、対応や相談先などは検討する。



提案したアッシーステッカー

コロナ対策でインフルエンザ予防接種助成対象者を増やすべき

健康・こども課長

助成対象者を拡大する方向で検討していきたい



録画中継

はぎ 萩 原 洋 子

秋冬に向けた感染症防止対策

問 秋冬の感染症対策は。

答 高齢者の感染症対策はインフルエンザと肺炎球菌の予防接種を行っている。元年度のインフルエンザ予防接種率は56.6%で65歳以上を対象に非課税世帯は無料、それ以外は1500円の個人負担になっている。

問 高齢者の予防接種率が50%台にとどまっている点をどう考えるか。

答 郡内他3町と同水準で、わずかだが年々数値は高くなっている。

問 コロナ禍における秋冬の感染症対策は。

答 新しい生活様式の徹底と十分な休養、バランスの取れた食事など、体の抵抗力を高めることが大切である。広報などで周知、啓発を図る。



聖和会クリニックでのインフルエンザ予防接種の様子

問 インフルエンザの予防接種率向上のため、団体やサークルなどで取り組んでは。

答 予防接種は自らの意思と責任で行う。強い接種勧奨にならないよう、団体などへの依頼は十分な検討が必要である。

問 コロナ対策で子どもや妊婦など予防接種の助成対象者を増やす考えは。

答 助成対象者を拡大する方向で検討していきたい。

地域の防災対策

問 危機管理専門官の活動は。

答 コロナ禍の避難所（防災）対策の講話や避難所運営マニュアルの作成をしている。今後は出前講座や減災に向けての指導などを考えている。

問 防災士資格取得の助成は。

答 今年度、助成などの要綱整備を行う。

問 今後の地域の防災対策は。

答 各地域に防災の見識を持つリーダーが必要である。自治区の人材育成のため、来年度より地域の人にも防災士の資格取得をお願いしたい。

問 防災リーダーの対象者と活動費などは。

答 40～50代の人を考えている。訓練など必要な活動費は助成を考え、今後、補助できるものがあれば検討する。



録画中継

いも 妹 かわ 川 いく 征 お 男

芦屋の海浜が見るも哀れな砂浜と化し、非常事態では

芦屋港活性化推進室長

砂が堆積し、松が埋まっていることは、町も現状を確認している

荒廃し続ける芦屋海岸

問 現在進めている「芦屋港活性化事業」の舞台となる芦屋海岸は、美しい砂浜が遠く続き、芦屋町民の癒やしや誇りの場所であった。しかし、現在では波打ち際は遠のき、砂浜の拡大化、砂に埋もれた松の幼木群、防砂堤、砂置き場、砂利船、ダンプカーといった異様な光景になっている。本年7月5日に海岸の現状を見る散策を呼びかけ、30人が参加し、関心の高さを示した。里浜づくりで植樹した松の維持管理は県か、町か。

答 県と町の協議で「松が一定規模に育ち、飛砂対策の効果が現れるまで県が維持管理する。」となっている。効果が現れるまで、町は維持管理する考えはない。管理協定書は現在まで締結に至っていない。

問 維持管理も決まらず、協定書もないまま、8年以

上も放置してきた。その間に砂浜の砂はじわじわと忍び寄り、植樹した松を覆い、生き埋め状態。松は消滅し松を守るために植えたグミ林だけが多くなっている。芦屋の海は昔の面影はななく哀れな砂浜と化している。

答 砂が堆積し、松が埋まっていることは町も確認しており、ひどい状況があるところも感じている。現在、その対応が取られていないため砂の除去などを県に要望していく。

問 「(仮称)あしやの里浜づくり協議会」を立ち上げ、アダプト制度でボランティアを募っていくことになっているが。

答 協議会とは、地域住民で松林を守り育てていくという組織である。里浜全体の維持管理、松の育成管理は行政が担っていく。アダプト制度とは里親制度のようなものであるが、現時点で協議会は立ち上がっていない。

問 芦屋海岸の現状を広報紙に掲載し、植樹ボランティアの参加者に知らせる必要があるとの声があるが。

答 里浜づくり事業の進捗状況は、植樹に参加した人々も含め住民に知らせる必要性がある。ただし、実施主体は県であるため、特に植樹に参加した人々への周知は、県が主体的に担うもの。このため町では、広報紙への掲載は今後県と相談しながら、進めていく。



植樹した松は砂で埋まり、グミ林化した海岸

町かど インタビュー



9月26、27日にボートレース芦屋の駐車場で開催された「屋台フェス2020in 芦屋」主催者の澤田さん、原武さん、そしてイベントに参加した皆さんにインタビューしたちゃ！



主催者の澤田さんと原武さん

★主催者にインタビュー

Q なぜ芦屋町でイベントを企画したのですか？

A コロナ禍でイベントが中止になっていて、キッズダンスの団体から発表の場が欲しいと話があり、福岡市などでイベントを開催。今回、キッズダンスに通わせている親御さんから同様の話があり企画しました。

★参加した親子にインタビュー

Q 今日はどうして屋台フェスに来たのですか？

A 娘がキッズダンスに出るので家族で見に来ました。出番まで時間があつたので、息子と射的を楽しみました。

Q 今回のイベントをどう思いますか？

A 3月からイベントが中止になり、ダンスの練習をしても発表する場がなくなっていたので本当に良かったです。



参加された木原さん親子

★ダンスイベントに参加した女の子にインタビュー

Q ダンスはいつ頃から始めたのですか？

A 4歳から始めました。週1回1時間30分練習しています。

Q 今日のイベントに参加してどうでしたか？

A コロナで他のイベントが無くなっていたので、良い機会になりました。

Q 将来の夢を教えてください。

A これからもダンスを続け、将来はダンサーになりたいと思っています。

将来の夢に向かってがんばってほしいっちゃ！



芦屋中学校1年生の占部さん

次回の定例会は 12月10日開会予定

本会議や委員会は、どなたでも傍聴できます。また、本会議は役場1階ロビーでライブ中継をしています。
※日程は変更になる場合があります。傍聴を希望する場合は議事事務局にお問い合わせください。(Tel 223-3579)
※新型コロナウイルス感染症の今後の状況によっては、傍聴をお断りする可能性がありますので、ご了承ください。

議会録画中継配信中

詳しくは、芦屋町ホームページをご覧ください。なお、配信は本会議終了から7日後(土日祝日をのぞく)になります。



録画中継ページ



大型の台風10号が過ぎ去り、日々の暑さも和らいで過ごしやすき季節になってきました。今年は、新型コロナウイルスの影響でたくさんの夏の風物詩のイベントも延期や中止になり、かわりある人の気持ちを思うと胸が詰まる思いです。

この夏、芦屋町では商品券給付や電気料金支援など町独自の支援策を実施しました。

また、子どもたちへ花火の配布事業や医療従事者の皆さんへ敬意を表したサブライズ花火の打ち上げに、心癒やされた町民の皆さんも多かったのではないのでしょうか。私の住む第2緑ヶ丘区では、夏祭りの代わりにドライブインシアターを開催しました。いつもと違う芦屋の夏休みでしたが、子どもたちにとって「忘れられない夏」になってくれてうれしいですね。

長島 毅

【発行責任者】

議長 横尾 武志

【議会広報常任委員会】

委員長 川上 誠一

副委員長 長島 毅

委員 本田 浩

委員 信国 浩

委員 萩原 洋子

委員 中西 智昭